

# 農の架け橋

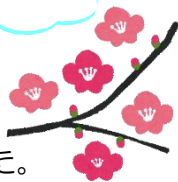
発行：鹿行農林事務所 経営・普及部門

(銚田地域農業改良普及センター)

TEL:0291(33)6193

FAX:0291(33)6725

2月を「光の春」と呼ぶこともあるそうです。  
春の訪れが少しずつ感じられるようになってきました。



## 銚田地域農業青年プロジェクト実績発表会を開催しました！

1月17日（水）、銚田合同庁舎で農業学園第6回講座を開催し、農業学園生や銚田市4Hクラブ員、助言者等あわせて17名の農業関係者が参加しました。

講座では、個人プロジェクト活動として銚田市の井川和義氏により「生分解性マルチを用いたカンショ栽培の作業省力化および規模拡大の検討」、共同プロジェクト活動として銚田市4Hクラブ副会長の田山耕司氏により「カンショの収量向上を目指して」の発表が行われました。

出席者からは、生分解性マルチ導入前後の作業労賃の違い、ほ場管理での苦勞などの質問があり、活発なやりとりが行われました。

そして、助言者からは、話す速さや声の大きさなど、発表の仕方についてご助言をいただくとともに、「若い力でどんどん新たなことを発見して欲しい」と激励をいただきました。



井川氏発表の様子

## 千両・若松の調製選別作業カイゼンセミナーを開催しました

1月23日（火）、神栖市はさき地域交流センターにて「千両・若松の選別調整作業カイゼンセミナー」を開催しました。

株式会社カイゼン・マイスターの藤井和徳氏から「トヨタ生産方式と農業現場の改善」と題して、トヨタ生産方式の考え方を活用した農業現場の改善について講演していただきました。また、若松出荷調製作業の動画を視聴し改善点について意見交換を行い、作業上の問題点や新たな気づきを得る機会となりました。

続いて、普及センターから選別機を活用した若松の選別作業時間の調査結果について説明し、機械導入により慣行（手作業）比で約1.8倍の作業効率化に繋がることを報告しました。

参加者からは、「自分たちでは気づけなかった問題点を認識することができた」「作業姿勢の改善に取り組んでいきたい」などの声が聞かれ有意義なセミナーになりました。



セミナーの様子

## 特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」に注意しましょう！

特定外来生物に指定されており、再生力、拡散力、侵略性がとても高いです。銚田地域においても北浦湖畔沿いで群落を形成しており、一部地域で畦畔への侵入も確認されています。乾燥や塩害にも強く、畦畔やほ場内で多発してしまうと防除が困難なので、早期発見に努め、農地への侵入、定着を防ぎましょう。

早期防除が重要ですが、断片から再生・拡散するため、畦畔の防除に刈払い機は使用せず、茎葉処理剤による除草を行って下さい。水田内で発見した場合、作期中は水稻用除草剤の体系処理を行います。刈り取り後（9月以降～降霜期）の茎葉処理剤による除草も効果的です。

水田内での防除方法については銚田普及センターにご確認ください。また、農業用水路で確認された場合は、市または土地改良区への連絡をお願いします。



長い柄に注意！

ナガエツルノゲイトウが繁茂している畦畔（左）

夏～秋に細い柄の先に球状の白い花が咲く（右）

# ハウス強靱化の推進について（連棟パイプハウスの補強方法）

銚田地域（鹿嶋市、神栖市、銚田市）は、太平洋に面し（海外線は南北約70km）、海からの潮風の影響を強く受ける地域が多く存在しています。

そのため、一部のパイプハウスでは、経年劣化に加え、サビによる腐食が進み、台風などの強風による被害を受けやすい状況にあります。

今回、紹介する動画（YouTube配信）は、こうしたサビにより劣化した連棟パイプハウスの腐食状況に応じた補強方法について紹介したもので、防災力を強化する上で、ぜひ、実践してみたいかがでしょうか。

※パソコンの場合は、鹿行農林事務所 経営・普及部門ホームページからご覧ください。

URL: [https://www.youtube.com/watch?v=Tt\\_5v3j\\_3\\_k&t=193s](https://www.youtube.com/watch?v=Tt_5v3j_3_k&t=193s)【前編】  
<https://www.youtube.com/watch?v=xrLxs17SrPU&t=193s>【後編】

連棟パイプハウスの補強方法

【前編】

【後編】



## サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期から植付期）

令和5年12月までに、茨城県を含む33都道府県で本病発生が確認されており、引き続き注意が必要です。

### 1. 「持ち込まない」対策

苗の増殖はウイルスフリー苗を使用しましょう。種いもを使用する場合は、栽培履歴が把握できており、病害等が発生していないほ場のいもを使用しましょう。

### 2. もしもの侵入に備えた対策

排水の悪いほ場では、発病が助長される傾向があるため、排水対策を徹底しましょう。

ほ場ごとに定植した苗の苗床の場所、採苗日等を記録しましょう。

### 3. 薬剤使用による対策（令和6年1月1日現在）

	薬剤名	使用量・希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	分類コード	使用方法
コンテナ等の消毒	ケミクロンG	500倍	-	-	-	瞬間浸漬
土壌消毒	バスアミド微粒剤／ガスタード微粒剤	30kg/10a	植付21日前まで	1回	8F	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
種いも消毒	トップジンM水和剤	200～500倍	貯蔵前～伏せ込み前	1回	1	30分間採苗用種いも浸漬
苗消毒	ベンレート水和剤	500～1000倍	植付前	1回	1	30分間苗浸漬
	ベンレートT水和剤20	200倍	植付前		M03 1	30分間苗浸漬
	トリフミン水和剤	500倍	植付前	1回	3	17時間苗基部浸漬

農薬を使用する際は、ラベルを見て対象作物、使用量・希釈倍数、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用をしないようにしてください。

## アザミウマ類が媒介する黄化えそ病(通称:ノーテン病)を次作に持ち越さないために！

近年、温暖化や薬剤抵抗性発達の影響から、年間を通じてアザミウマ類が媒介する「黄化えそ病」の発生が多い傾向にあります。

過去の調査から、ピーマンの黄化えそ病の発生は、前作で発生した保毒アザミウマ類を死滅させられず、次作のピーマンに感染させてしまうことが大きな原因であることが知られています。

そこで、次作に持ち越さないための対策として、栽培終了後のキルパー液剤を用いた前作ピーマンへの処理方法について紹介します。

- ①ハウスを密閉します。
- ②晴れが2～5日続く日に、灌水チューブや点滴灌水チューブを利用して、希釈したキルパーを規定量施用します。
- ③夏であれば、5日で完全に枯れます。その後、伐根します。

黄化えそ病の伝染環を断ち切るため、地域一丸となって取り組みましょう。



夏季にキルパー液剤処理をして3日後の様子